

令和6年度 第3回白井市在宅医療・ 介護連携、認知症対策推進協議会

2025.2.6



<目次>

(1)在宅医療フォーラムの実施報告

(2)多職種連携研修会の報告

(3)在宅医療後方支援制度の実施報告

(4)認知症基本法の概要について

(5)意見交換

(6)次年度の事業実施方針について

1. 在宅医療フォーラムの実施報告

「人生会議について知ろう ～人生の最終段階を自分らしく過ごすために～」

日時：令和6年12月12日（木）

午後2時から

講師：あさがおクリニック白井院

院長 諸岡 真道 先生

対象：市民80名

内容：もしバナゲームの実施

「自分の人生の最期について考えてみよう」

講演

「人生会議（ACP）ってなに？」

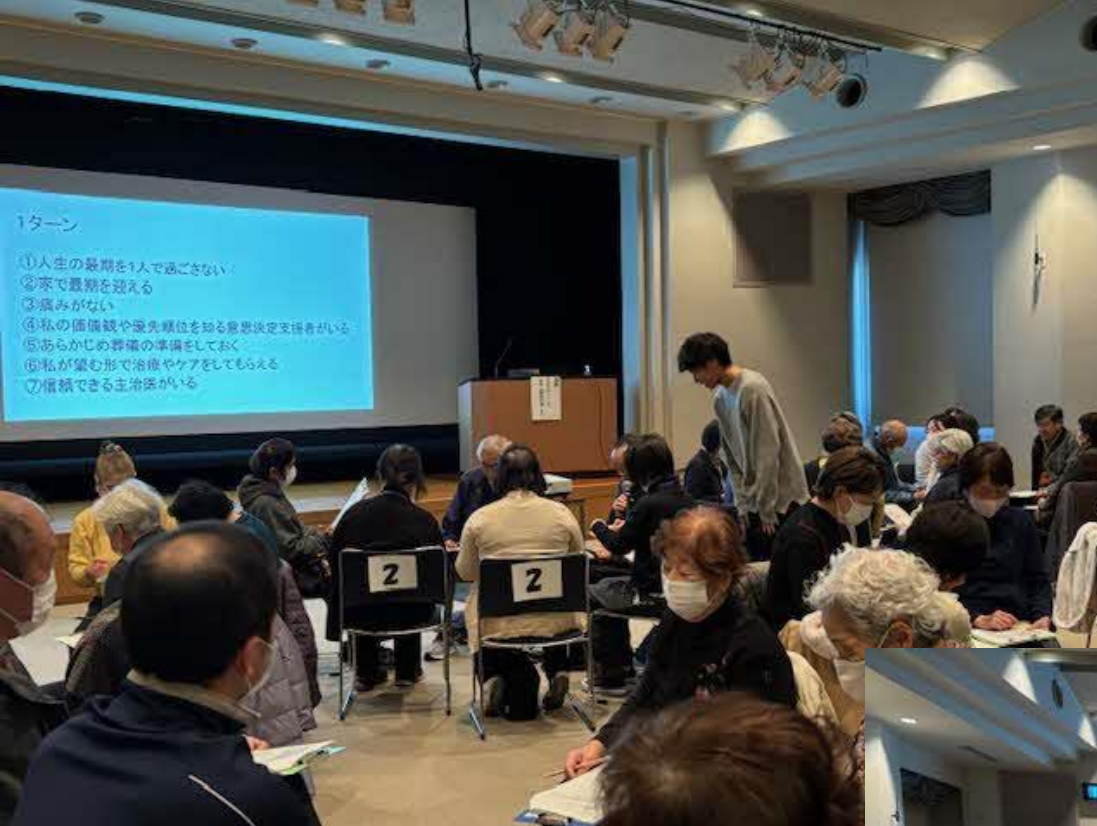
～在宅診療や看取りの事例を通して～」



市民59名が参加

人生会議(ACP)について、
急変時や救急搬送時に備えて
家族が延命の希望を把握して
おくことの重要性、事例を交え
た訪問診療の講演を聞くことが
できました。



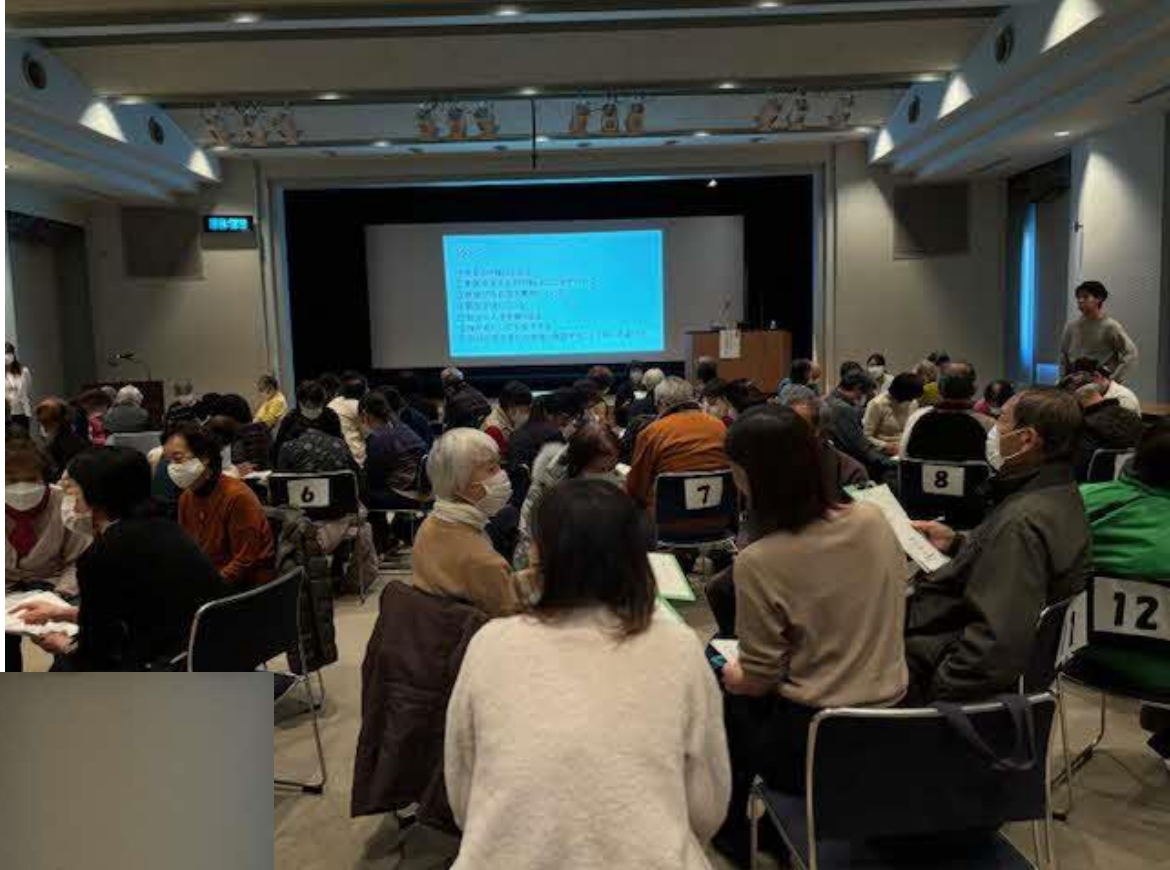


もしバナゲームの実施

これだけの大人数での
ゲーム実施は初の試み！



もしバナゲーム



1グループ5名で
ファシリテーターが
入って実施しました

アンケートより

講演の感想

- 訪問診療のことがよくわかった
- ACPについて理解が深まった
- 在宅医療の世界が身近になり嬉しくなった
- 患者のことを考え心のところまで入ってきてくれる医療者がいることは素晴らしいこと
- 最近の在宅医療の状況がわかった

アンケートより

もしバナゲームの感想

- 初めてで戸惑った
- 早すぎたのもう少しゆっくりやりたかった
- 自分の気持ちの整理できた
- 重い問題をゲームのような形で自分の気持ちを確認するのは良いこと
- 判断が難しかったが、考えさせられた
- 自分の価値観、他人の様々な価値観を知ることが出来た
- 日頃家族と向き合っていくことの大切さを感じた

当日の様子と振り返り①

- ・テーマがテーマだけに、重いと考えてしまう人が多いのか集客に苦労した
 - 市内サロンや楽トレ、通いの場、市主催の教室や会議等様々な場所での周知を行った。何か興味を引く企画や重く感じないような工夫が必要だったかもしれない
- ・もしバナゲームはやらなくて良いので、講義だけ聞いて帰りたいという参加者が何人かいた
 - ゲーム参加は強制ではないことを説明したが、結果ゲームには皆さん参加されていた

当日の様子と振り返り②

- もしバナゲームに関して、80歳代後半の方ではゲーム自体についていけない参加者も少数いた。また、嫌なのか定かではないが、「選ばない」「選べない」という人もいたようだった
- ナイーブ内容でもあり、各グループに1人ファシリテーターの存在は必須であった

2. 多職種連携研修会の報告

多職種連携研修会の取り組み

①終末期・看取りケア研修会

②急変時対応講習会

終末期・看取りケア研修会

日時：令和6年11月13日（水）

午後6時から

講師：白井聖仁会病院

緩和ケア認定看護師 殿内 久美子氏

**対象：市内訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、
訪問介護、介護施設従事職員**

計34名参加

内容：講義「終末期の緩和ケア」

グループディスカッション

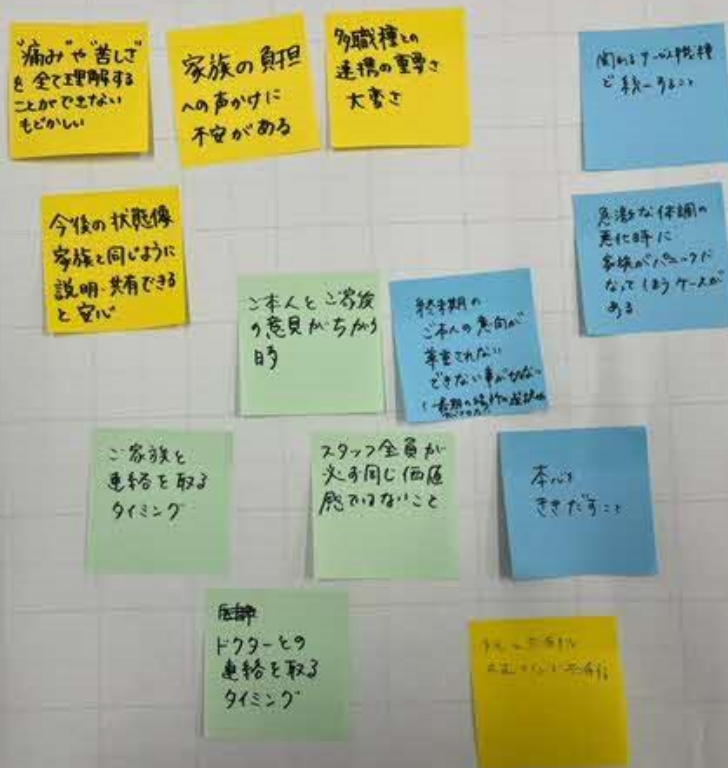
**「日頃の対象者支援において、終末期ケアについて
感じることや困っていることを共有しよう」**

講義



終末期の経過や症状から終末期せん妄について、
多職種連携について事例を通しての講義を聞くことができました。

グループワーク



医療、介護、福祉職それぞれの立場から意見交換ができていました。

アンケートより

講義の感想

- 終末期で起こっていく変化がグラフ等で分かりやすかった
- せん妄の詳細を知ることが出来、対応を含めとても勉強になった
- 訪問ヘルパーとして、専門的な医療や薬の種類は初めて聞くものだった
- 事例はイメージがしやすかったし、関わる職種やそれぞれの動きが学びになった。

アンケートより

グループディスカッションの感想

- ・多職種の方の色々な話を聞けて、お互いの思いを伝え合えたことがとても良かった。同じ方向を向くためのディスカッションの必要性を感じた
- ・職種ごとの視点や気づきを話し合えて良かった
- ・共感できる話題がたくさんあった。悩みの理解をしてもらえた
- ・多職種の仕事としてそれぞれが抱えている問題の一端がよくわかった

急変時対応講習会

日時：令和7年1月23日（木） 午後6時から

講師：千葉白井病院 理事長 筒井 雅人医師

対象：市内介護施設の従事職員 計26名参加

内容：講義

「介護施設における蘇生の意思把握の必要性」

「救急時における医療機関と介護施設の情報共有、
連携について」

「一次救命処置と窒息時の対応について」

実技

「一次救命処置」

グループディスカッション

「介護施設における急変時対応の課題」

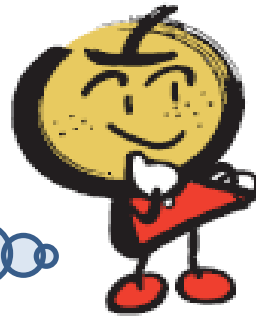
「自施設において取り組めそうなこと」

消防署からの説明

市の高齢者救急
搬送の状況

救急医療情報シート、
介護施設用シートの
現場での活用状況

介護施設の
救急搬送事例



デモ実施、
実技指導

DVD視聴

- 一次救命処置の流れと救急医療情報シートの使用
- 窒息時の対応

講義



介護施設におけるDNAR把握の必要性や、医療機関で必要な情報や聞きたい情報等について、医師から聞くことができました。

実技



心肺蘇生法、AED使用法
について、皆で現場をイ
メージして声を出しながら
実践しました。

グループワーク

[5 G]

施設における急変時対応の課題	施設で取り組みそう
・状態の悪い方が多い (小規模多機能) ・夜間、急変の場合、連絡をする優先順位がわからない ・マニュアルはあるが、実際にあった時に対応出来ず不安 ・Ns. にまでは連絡 ・夜間、Ns. はいるか、介護も対応できるようにシミュレーションしてる ・(デイクービス) DNARE、契約時にどこまで関心があるか	・契約時、自宅にある情報シート ・マニュアルにする ・どこに何が置いてあるかを年に一度確認 ・シミュレーションに対してできるように心がける ・情報は常に更新 ・救急医療情報シートの利用 ・方名など記入済のカード、すぐに使えるように常備しておく ・DNAREは本人・家族と一緒に考えてもらい更新していく

[G]

施設における急変時対応の課題	施設で取り組みそうなこと
・GOTやFORS → ココロしている時 ・NSから112へ通報する ・巡視に行く時の倒れ方 → 112に伝えるように ・→ 倒れた時の確認が重要 ・救急車を呼んでいってほしい ・巡視の隊員に ・頭出血している ・白粉や粉を飲んでいないか、吸入 ・FORS (連絡がとれない) ・監視者	・夜間、急変は、施設で対応できるように ・112に伝えるように ・情報シートを常に利用して活用する ・住居型でも利用する
⑧ 優先順位 ・利用者ごとの対応 ・連絡先 ⑨ 一人対応の対応 → 救急車に来て、112へ	

各介護施設従事者、
救急救命士での情報
共有、意見交換がで
きていました。

アンケートより

講義の感想

- ・延命の流れについて把握できた
- ・DNARの定期更新が必要だと思った
- ・介護向けにわかりやすい言葉で説明がされ、勉強になった
- ・DNARの必要性や緊急時の対応、病院で必要とされる情報、施設で困る案件など教えていただき、今後の仕事に役立てたい
- ・いつ何があるかわからないので把握しておきたい

アンケートより

実技の感想

- これまでも何度か同様の講習を受けているが、いざというとき慌てないように繰り返し聞いておく必要があると感じた
- 背部を叩く強さとか体感に近い状態で分かりやすかった
- 窒息時、物が出たらそれでOKと思っていたので正しいことを知ることが出来、良かった
- 知識としては頭にあるが、実技になるとなかなか難しい。胸骨圧迫の力加減とか難しいと思った

アンケートより

消防署の説明及びDVD視聴の感想

- ・シートの更新を定期的に行う必要があること、シートがあることで救急時時間短縮となり、救命率が変わってくるということが理解できた
- ・当施設では入所時に記入しているが、情報の更新がされておらず実際の搬送時に連絡がつかないことがあったので今後は更新していきたい
- ・DVDは、施設内での急変時の職員の対応や役割の在り方が細かく説明されていて良かった

アンケートより

グループディスカッションの感想

- ・自施設、他施設との情報共有ができ良かった
- ・救急隊の方とコミュニケーションがとれて良かった。
普段、救急隊の方とお話する機会はないので大変勉強になった。今後、救命士と協力してスムーズに行えるようにしたい
- ・救急医療情報シートの活用について、救急隊の人の体験も交えて聞くことができたのでよく理解できた

3. 在宅医療後方支援制度の取組報告

4.認知症基本法の概要について

共生社会を実現するための認知症基本法

令和6年1月1日に施行

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことが出来るよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進

認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会（＝共生社会）の実現を推進

共生社会を ともにつくる

認知症の有無に関わらず、
一人一人が個性と能力を発
揮し、互いに尊重し支え合
いながら共生する社会

認知症の本人の 声を聞く

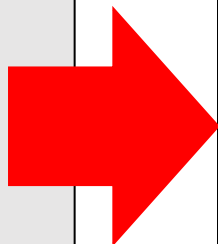
全ての認知症の人が、基本
的人権を持つ個人として自
分の意思で生活できるよう
にすること

「新しい認知症観」 に立つ

- ✕ 認知症になると何もできなくなる
- 認知症になっても希望を持ち自分らしく暮らす

古い認知症観

- ①他人事、目をそらす、先送り
- ②認知症だと何もわからない、できなくなる
- ③本人は話せない/声を聞かない
- ④おかしい言動で周りが困る
- ⑤危険重視
- ⑥周囲が決める
- ⑦本人は支援される一方
- ⑧認知症は恥ずかしい、隠す
- ⑨地域で暮らすのは無理
- ⑩暗い、委縮、諦め、絶望的



新しい認知症観

- ①我がこと、向き合う、備える
- ②わかること、できることが豊富にある
- ③本人は声を出せる/声を聞く
- ④本人が認知症バリアの中で一番困っている（本人なりの意味がある）
- ⑤人権重視。自由と安全のバランス
- ⑥本人が決める（決められるよう支援）
- ⑦本人は支え手でもある
支えー支えられる関係
- ⑧認知症でも自分は自分、オープンに！
- ⑨地域の一員としての暮らし、活躍
- ⑩楽しい、のびのび、諦めず、希望を

市の認知症支援の取組

認知症サポーター &
キッズサポーター
養成講座

認知症パートナー
の養成

認知症カフェ
(お楽しみ処)
の開催

初期集中支援チ
ームにおける支援

本人ミーティング
の開催

徘徊模擬訓練
の実施

お元気まもり
事業における訪問
等での見守り

見守りネットワー
ク事業での緩やか
な見守り

認知症ケアパス
作成・配布

本人ミーティング の開催

希望をかなえるヘルプカード



自分が行きたいところに、安心して、一人でスムーズ出かけるために、自分が使うカードです。

カードには周りの人にちょっとわかってほしいことや、頼みたいことを書いておけるフリースペースがあります。

外に出かける時に持ち歩き、必要な時に周りの人にカードを見せると、頼みたいことが一目で伝わります。

カードのひな形があります。

自分に役立ちそうなひな形を参考にあなたも自分にあったヘルプカードをつくってみませんか？

詳しくは裏面を

希望をかなえる ヘルプカード



**持って安心！
使って便利！**

自分のカードを持って
行きたいところへ、
自由に出かけよう！

自分にあった持ち方の工夫をしよう
～持ちやすく・出しやすく～

名刺入れや財布
に入れる



ネームホルダー
に入れる

ケースに入れて
カバンやベルトに
つける



お薬手帳や
障害者手帳に
はさんでおく

自分用のカードを作ってみよう！ カードをもって、出かけてみよう！

相手にもわかりやすい
ように伝えたいことを
はっきりと書きましょう

カードの例文です

ここに行く道を教えてください

東京ドームに
行きたいです

家への帰り道を教えてください

目印は〇〇保育園です
そこまで行けば帰れます

私の代わりに連絡をしてください

090-1234-5678
(東京花子・地域包括センター)
私は杉並太郎
杉並区〇〇-△△△

馬場に近づいたら声をかけて教えてください

JR西荻窪馬場で
降りたいです

ノートに書いて教えてください

あなたのお話を
覚えておきたいです

この操作を教えてください

セルフレジで
支払いたいです

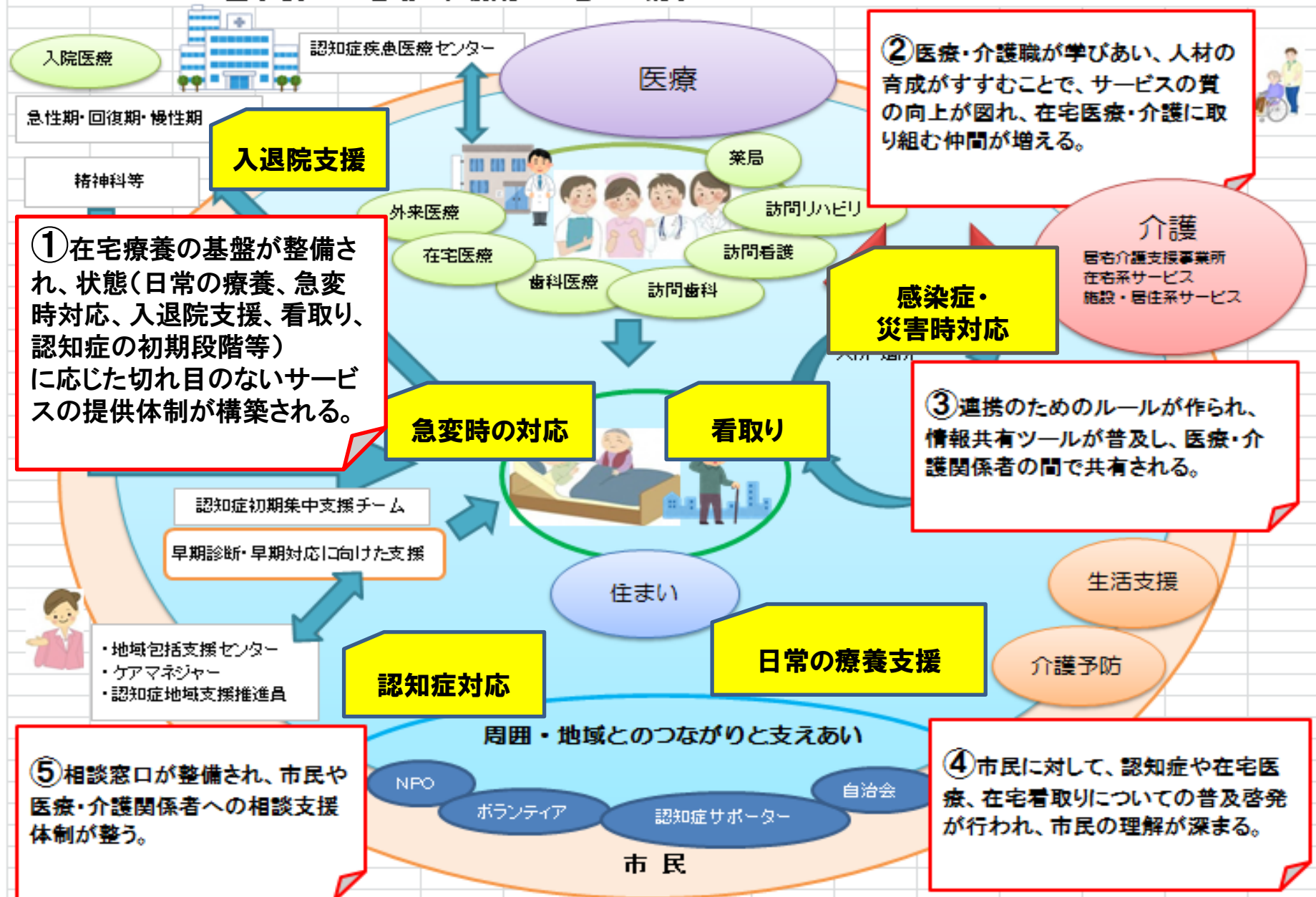
5. 意見交換

下記について委員の皆様からお話を伺いたいと思います。

**「認知症の人が自分らしく過ごすために
地域においてできること」**

6. 令和7年度の事業実施方針について

住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けることができるためには・・・



白井市の目指す姿（5つの柱）

令和7年度の事業実施方針

日常の療養支援

在宅医療後方支援制度の普及、情報共有の推進、在宅療養への市民理解促進、**ICT（多職種連携情報共有システム）の活用促進**

入退院支援

入退院時連携ルールBook活用の周知、**入退院時連携に関する多職種連携研修会の開催**

急変時の対応

消防（救急）との意見交換会、救急医療情報キットの普及

看取り

在宅療養者へ対しての看取りへの支援体制の充実、終活支援ノートやACPについて市民への普及啓発

認知症対応

徘徊模擬訓練の実施（実施地域拡大）、認知症フォーラムの開催、認知症カフェの充実、本人ミーティングの開催

感染症・災害時対応

介護事業所等に対しての感染症対策研修会の開催
災害時の在宅療養者への対応検討（関係課、介護事業所）

次回会議日程

令和7年5月